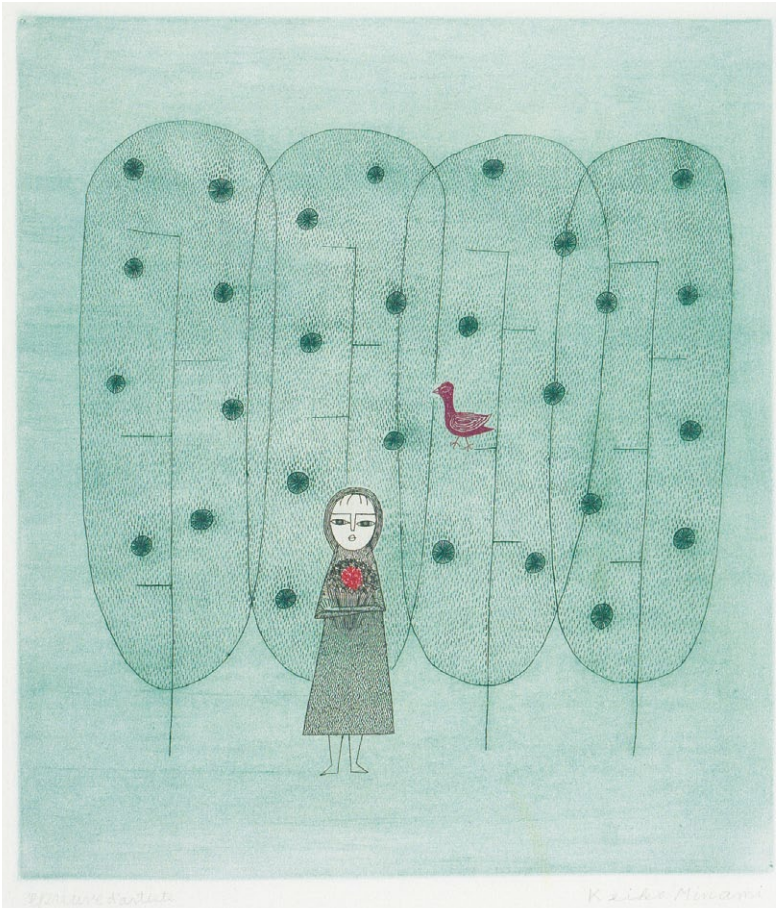


南桂子展 風のあわいに

小川イチの作品と共に

2016. 5.21 sat — 8.7 sun



[M-1] 「林と少女」 南桂子 1985年 銅版画、紙 32.5×28.3cm



[O-1] 「春滴」 小川イチ 1988年 油彩、キャンバス 90.9×116.7cm

ごあいさつ

一抹の寂しさと、どこか懐かしさもあわせつつ独特の銅版画世界を作り出す南桂子(1911-2004)の展覧会です。樹は立ち並び、鳥や少女がたたずみ、果てしなく広がる空。その画面世界の住人たちは、見る人を誘うでもなく、拒むでもなく、ただそこにいるだけ。ある種の無関心さが、かえって私たちを安心させてくれるのかもしれませんが。

本展では南桂子の銅版画と初期の油彩、約40点とともに、南が画家として歩み始めた頃の友人で、生涯を通して交流のあった、小川イチ(1922-)の油彩、約15点を展示いたします。

南と小川が出会ったのは1940年代後半、戦後の復興期にあたり、女性の画家がまだ少なかった時代です。二人は芸術への期待を大いに抱き、洋画家・森芳雄のアトリエに集い、夢を語り合います。女性画家の育成を担う朱葉会などの団体展へも意欲的に作品を発表し、小川の方は若手の画家として注目されています。

その後、南がパリへ渡り、銅版画の道を見出す一方、小川は国内で油彩画と向き合い、90歳を超えた今もなお、立軌展に発表しています。めまぐるしく変わる作風の中で一時期は南作品に響くような孤独な情景も描きましたが、80年代以降は主に桜の大樹をモチーフとし、「透けていく風の心境」とも評される作品を描き続けています。

海を隔てても、画家として、友人として、二人の心の交流は続きました。その二人の作品を半世紀近くの時を経た今、同じ空間に展示いたします。それぞれの表現方法で、たゆむことなく憧れや心のよりどころを描き通した、二人の女性画家の凛とした姿勢を、作品を通してご鑑賞いただけたら幸いです。

浜口陽三の銅版画約15点も併せて展示いたします。

展覧会概要

日時 | 2016年5月21日(土)～8月7日(日)
会場 | ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション
入館料 | 大人600円 大学生・高校生400円 中学生以下無料
休館日 | 月曜日(祝日の場合は開館し翌日休館)
開館時間 | 11:00～17:00(最終入館16:30、土日祝は10:00開館)
《ナイトミュージアム/会期中第1・3金曜*20:00まで開館(最終入館19:30)》
*第1・3金曜…6/3、6/17、7/1、7/15、8/5の5日間
※休館日、開館時間等は都合により変更する場合がございます。

美術館概要

ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション
住所 | 〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-35-7
TEL | 03-3665-0251 FAX | 03-3665-0257
E-mail | musee@yamasa.com
HP | <http://www.yamasa.com/musee/>
アクセス | 東京メトロ半蔵門線[水天宮前]3番出口そば
東京メトロ日比谷線[人形町]A2出口徒歩8分
首都高速箱崎I.C[浜町出口]または[洲崎橋出口]T-CAT駐車場前

プレスリリースご担当者様へ

ぜひ展覧会にお越し下さい。あわせてご取材頂けますと幸いです。
作品画像をご希望の際は、作品下の番号をお申し付けください。
お問い合わせは広報担当の柳原までよろしく申し上げます。

掲載情報について、詳細は当館HPまたは
お電話、メールにてご確認ください。

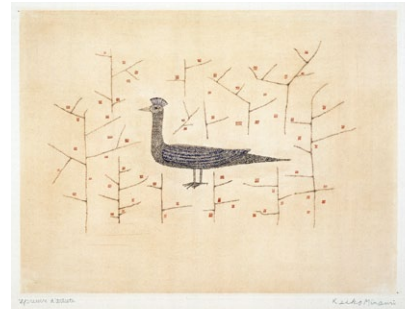
南桂子 MINAMI Keiko



【M-2】「2人の少女」c.1964年 銅版画、紙 36.9×28.0cm



【M-3】「街と6羽の飛ぶ鳥」1963年 銅版画、紙 38.0×28.3cm



【M-4】「草の中の鳥」1957年 銅版画、紙 28.0×37.0cm



【M-5】「湖と白い鳥」1957年 銅版画、紙 34.3×29.2cm

News 南桂子 新刊情報



銅版画家 南桂子 メルヘンの小さな王国へ

平凡社 コロナ・ブックス 編 ISBN 9784582635034 定価1,700円+税 B5変形版 128頁
 ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション編集協力により南桂子の新たな作品集
 が出版されました。多数の銅版画作品とともに、著名人からのエッセイ、各時
 代の写真や資料から南桂子の魅力に迫った一冊です。

好評発売中

小川イチ OGAWA Ichi



【O-2】「漂に咲く」1993年 油彩、キャンバス 112.1×145.5 cm



【O-3】「次の世界に」2015年 油彩、キャンバス 50.0×60.6cm



【O-4】「所在なく」1979年 油彩、キャンバス 60.6×50.0 cm

小川 イチ(1922-) 略年譜

- 1922 北海道月寒に生まれる
- 1943 太平洋美術学校卒業
- 1948 太平洋画会展で奨励賞
吉田博版画工房の刷色調整手伝いに従事
吉田遠志氏、穂高氏と交遊
- 1949 太平洋画会展出品
第1回よみうり日本アンデパンダン展出品
(以降第5回展まで連続出品)
南桂子氏の知己を得る
森芳雄先生を知り、以後師と仰ぐ
- 1950 朱葉会展出品。朱葉会賞受賞、会員に推挙
- 1957 最初の個展(東京銀座、村松画廊)
立軌会会員となる。立軌展に初出品
(以降、今日まで毎回出品)
- 1970 個展(フジカワ画廊東京店、大阪店)
(以降、数年に一度個展開催)
- 2010 満88歳を迎え、記念画集を刊行
《主な収蔵先》千葉県立美術館、佐倉市立美術館

関連イベント

手製本ワークショップ「重ねて物語をつむぐノート」

様々な色や形、質感の紙を組み合わせ、製本の基本技法である「一折中綴じ」でつくるノート。銅版画の版の重なりのように、紙の積層が一つの風景や物語を生み出します。半透明の表紙からは中の紙が透けて見え、飾って楽しむこともできます。

講師 | 本間あずさ(製本家/「空想製本屋」店主)

日時 | 6/20(月)【午前の回】10:30~13:00【午後の回】14:00~16:30

講師プロフィール:

2005年より都内工房にて手製本を学ぶ。編集職を経た後2010年「空想製本屋」を屋号に製本家として独立。2011年スイス・アスコナの製本学校で再び学ぶ。少数の受注製本、製本教室、ワークショップなど活動中。手製本リトリブレス「MONONOME PRESS」を主宰。

寄木ワークショップ「天然色のアクセサリー」

南桂子作品に出てくるモチーフを元に、色や形の異なる小さな木片を組み合わせる。つくる寄木木のワークショップ。ブローチ、キーホルダー、ピアスのいずれかを選べます。小学生以下のお子様の参加も歓迎です。(要大人同伴)

講師 | 西村真人(木エブランド「BUCHI MOKKOU(ぶち木工)」主宰)

日時 | 7/19(火)【午前の回】10:30~12:30【午後の回】14:30~16:30

講師プロフィール:

家具職人を経験し、2010年「2畳半Factory」、2011年「BUCHI MOKKOU」をスタート。「木のことなら何でも」をスタンスに約3畳の作業場で、木で何でも作り出す自称「木工屋」。作り手と使い手の顔が見えることを大切に、偶然性の中に物語を紡ぐこととしています。